



Stars and Crescents
(solitary act in Istanbul between 14 and 20 September 2011)

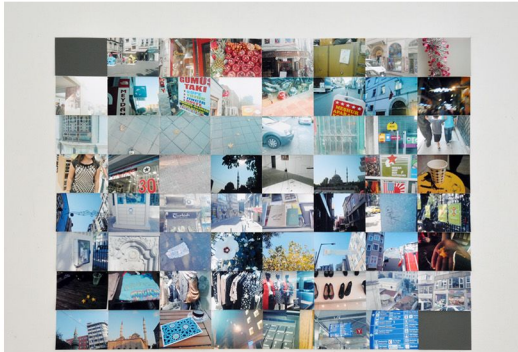
2012年
アクト+ インスタレーション
(写真[マット紙にインクジェット]62枚、コットン紙2枚)
画像全体: 153x114 cm

これはイスタンブールで行なった、日常生活の中で星と三日月を見つけて写真に撮る、というアクトであり、そのアクトの証拠となる写真を並べて、インスタレーションとして発表したものである。

「国の」と「宗教の」は世界共通
星と三日月はトルコのアイデンティティの印であり、世界中で見つかる共通のシンボルでもある。自然や文化、宗教や商業、政治、意図されずその形になってしまったものなど、何であって星や三日月のかたちに見えるものを見つけると、それを写真に撮り、それがこのアクトの証拠となった。

多種多様な星座を形づくる
それら62枚の写真を紙に印刷し、その一連の最初と最後に灰色の紙を添えた。それを縦横8枚ずつ、時間系列順に配置して、星と三日月の数々に構成されるさまざまな「星座」を抱く、ひとつの画像を作り出した。

地球の裏側の体験
この着想は、モスクを見たことのないブラジル人の友人がミナレットの上にある三日月型の部分を「可愛らしいデザインだ」と言及したこと、アルゼンチン版のクロワッサンであるメディアルナを食べてオスマン帝国とクロワッサンの形状の由来にまつわる逸話に思いを馳せたことなど、イスタンブール滞在に先立ち訪れたブエノスアイレスでの体験に基づいている。



(左頁、上から)その切り口には星形が含まれている、通りの売店で売られるザクロ; 四角星の描かれた紙コップ、五角星が含まれたグラフィティ; 星座を形づくる、証拠写真のインスタレーション風景 (右頁) イスタンブールで見つけた、62枚の星と三日月の写真

